

表紙の人

シリーズ表紙の人
奈良で活躍されている人をご紹介します



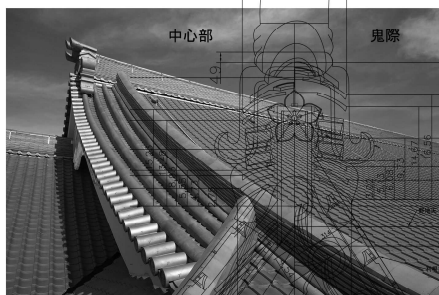
「表紙の人」は石野瓦工業株式会社の代表取締役、石野欣秀さんです。石野さんの会社は江戸時代から奈良盆地南部の鬼瓦に名前を残す「三輪佐平次」に流れを持つ瓦工事の業者さんです。石野さんの先代の、石野欣延氏は井上新太郎氏（「本瓦葺の技術」の著者）に師事し本瓦葺きの技術、技能の研鑽に取り組み、以来数々の国宝、重要文化財等重要建築物の瓦葺を手掛けてこられました。

石野さんは『社寺の瓦葺きは、宮大工の木工事と同様に昔から長年の修行を必要とし、一人前になるには多くの努力と研鑽が必要になります。宮大工は「規矩術」という完成された技術があり、それを習得することが目標となります。あまり知られていませんが瓦葺にも「瓦葺規矩術」とも言えるものがあります。それを完成させたのが井上新太郎氏です。古来口伝と、いわゆる「盗む」ことにより伝わった技

能を原寸図に表わすことにより事前に設計者にも納得してもらえるようになりました。さらに孫弟子ともいえる私がそれをCAD化しゼネコン、設計者等とデータの交換が出来るよう工夫しました。今後は「瓦葺規矩術」の3D化に取り組んで行きたいと思います。これは施主様にも事前に仕上がり納得して頂くためです』、さらに『近年施工した京都南座耐震工事と熊本城復旧工事は耐震化が主目的となったため棧木に瓦を止めつける乾式工法が採用されました。瓦の種類は棧瓦、本葺瓦の違いがありますが野地が同様に昭和のコンクリートで不陸、不均衡が激しく棧木の調整に大変苦労しました。反り屋根は従来、葺土で高低を調整して滑らかな曲線を作ります。それには基準糸に合わせて葺土の量を調整し瓦を葺いていけば良いのですが、乾式で行うには大変な手間がかかるためです。熊本城では振動実験で耐震性を事前に確認しました。特に一番上の鯨の支柱は棟を積む前に固定する必要があるため原寸図での確認を慎重に行いました。一般の住宅等の瓦葺は「瓦割」に代表されるように「二次元」の世界です。それに対して社寺の瓦葺は鬼瓦の据える位置、棟の反り等立体的な要素が加わり「三次元」の世界になります。文化財の修復になると様々な時代の瓦の使い方等を考えなくてはなりません。いわゆる時間軸の次元が加わり「四次元」の世界になるのです。このように同じ「瓦葺」という言葉でも次元の違う世界が確実に存在しています』と熱く語っていただきました。培った経験と確かな技術・技能を持つ石野さんだからこそ挑戦できる新しい時代の瓦葺きをこれからもこの奈良の地から発信していただきたいと思います。



南座外観



南座 デイテール



熊本城 施工状況

令和元年度を振り返って

新しい年号となった令和元年度を振り返って、建築士会、また、建築士や建築に関わるものとして、会員の皆さんとともに考えてみたいと思います。

まず、「建築士会」としては、二つの大きな出来事がありました。一つは、年会費の値上げであり、もう一つは、近畿建築祭の奈良での開催であります。

年会費は、平成7年度に改正された後、今日まで改正されることなく、(一社) 奈良県建築士会が運営されてまいりました。しかし、近年の会員減少や消費税の改正等により、ここ10数年間、赤字運営を余儀なくされています。そこで、令和元年度定期総会で、財政・運営の健全化を目指して、事業や支部のあり方、会費の見直しなどを検討することになりました。そして、財務・組織検討会を設置しました。その結果、事業方針の見直しと年会費の値上げを行わざるを得ないという答申でした。値上げとなれば、会員の皆さんに多大な負担をお願いしなければなりません。10月には、各支部で説明会を開催し、ご意見をいただき、令和2年1月24日の臨時総会で、年会費値上げを了承していただきました。会員皆様のご理解のお蔭と深く感謝しているところです。

近畿建築祭は、多くの会員皆様の協力をいただき会議を重ねました。その結果、近畿建築祭「奈良大会」は、11月30日(土) 奈良春日野国際フォーラム薨において、『MY HOME TOWN』一このまちで生きる このまちを活かすをテーマとし開催することができました。建築士会会員327名、一般市民を含め総勢487名という多数の方々の参加を得ることができました。午前には、近畿建築士会協議会青年部会による建築活動事例発表会「近畿あーきてくと Vol.27」で、テーマは、『地域の魅力をひきだす建築×○○』として3つの事例の報告があり、午後には式典に続いて、建築文化講演会として、映画監督の河瀬直美氏に、『映画と建築』をテーマにご講演をいただきました。映画も建築もひとりのみで創作できるものではなく、多くの専門家の協働が必要であることを改めて感じました。

次に「建築士」という立場から考えたことは、建築物の木材利用の促進、空き家の流通支援、そして、歴史的建造物の利活用の促進に取り組まねばならないと思いました。

まず、建築物の木材利用の促進ですが、奈良県「奈良の木ブランド課」との話し合いの中で、奈良県において公共建築物の木造・木質化が進んでいないとの指摘がありました。そのため、今年度に、木材活用のためのセミナー&ワ

ークショップが3回開催されました。1回目は、中大規模木造建築の基礎知識と体制づくり、第2回目は市町村における中大規模木造建築の取り組み紹介、第3回は木材調達とコーディネーターの役割紹介でした。そのセミナーや事例から、木材利用が進まないのは、コストの問題のみではなく、木材の流通に関する知識不足や木材関係団体との橋渡しの体制ができていないことだと感じました。



空き家セッション



木のワークショップ

空き家の流通支援については、(公社) 日本建築士会連合会に街中(空き家) まちづくり部会があり、私はその部長をしており進める立場にいます。奈良県内では、空家等対策協議会に建築士が委員として参画しています。また、生駒市、橿原市、桜井市では、空き家の利活用を支援する「プラットホーム」が設置され、流通困難な空き家の利活用を進めるために所有者への専門的な支援をしています。その組織が有効に機能するために建築士として意見を述べる必要があると考えています。

また、歴史的建造物の利活用の促進については、平成31年3月に「歴史的建造物委員会」が立ち上がりました。この組織は、地域固有の歴史的、文化的な価値を有する建造物の活用が全国的に広がっていますが、建築基準法などの法規に適合させるために、改修工事が困難であったり、多額の費用が必要であり、そのため、解体されてしまったり、放置され空き家となっているものを専門的立場から活用を支援しようとするものであり、今後の委員会の活用が望まれています。

最後に、風水害被害への対応について、建築に関わるものとして、もっと考える必要があるかと思います。今まで、私は地震被害への対応として、建築物の応急危険判定支援や、耐震性能の強化を検討してきましたが、風水害については、あまり進んでいないのではないのでしょうか。令和元年の台風被害から多く学ぶ必要があると思います。

令和元年度を振り返り、思いつくことを羅列しました。皆様も一度振り返ってみてはどうでしょうか。

(記: (一社) 奈良県建築士会 会長 米村博昭)

景観調和賞／朝日町のデンタルクリニック

教育事業委員会



【作品のコンセプト】

奈良市内の比較的落ち着いた住宅街に、地域の人々にとって親しみやすく気軽に訪れることのできる、まちの新たなランドマークとなる建物を計画しました。

シンプルで大きな切妻屋根、構造材によって構成されたガラス張りが特徴的な外観と存在感のある現しの登り梁、ラワン合板仕上げの内装とすることにより従来の歯科のイメージとはことなり温かみのある落ち着いた空間を目指しました。

【審査員講評】

新しい住宅地の角地に建つ「朝日町のデンタルクリニック」は、大きな切妻屋根とコーナーの開口部が印象的である。周囲街路に、待合室の雰囲気が伝わるように設計されていることに好感が持てる。



【景観調和賞】

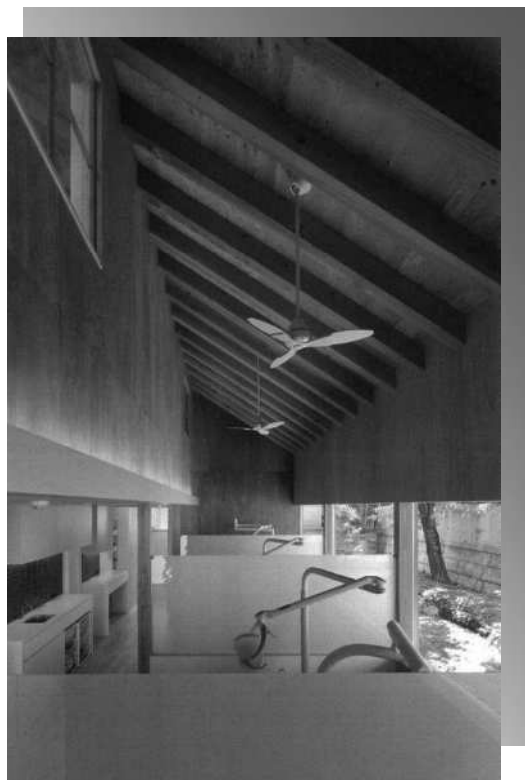
作品名：朝日町のデンタルクリニック

施主：竹原 創平

設計者：株式会社一級建築士事務所

カワバタマサヒロ建築設計事務所 川畑 昌弘

施工者：株式会社アーキネット



お知らせ

●令和2年度通常総会の延期について

5月21日(木) ホテルリガーレ春日野にて開催を予定していましたが「令和2年度通常総会」につきましては、新型コロナウイルスによる感染拡大が続いており、感染防止のため、延期することにいたしました。延期時期は、今後、状況を勘案し、後日確定次第改めてご案内いたします。すでに出欠・委任状を返送いただいている会員の皆様には、お詫び申し上げます。

●講演会情報

ご案内していました建築家・大島芳彦講演会「リノベーションによる地域価値の再生」は新型コロナウイルスの影響により中止となりました。詳しくは、事務局までお問い合わせ下さい。

●年会費納入のお願い

本年度会費は5月7日(木)までにお振り込み頂きますようよろしくお願いいたします。

●新型コロナウイルス感染症予防について

現在猛威を振るっております、新型コロナウイルス感染症予防に関しまして、総会をはじめ各種イベント開催につきましては、今後変更、延期等の可能性がございますことをご留意頂きますようよろしくお願いいたします。詳しくはHPをご覧ください。

●入会

西本	成志	様	生駒支部
金子	和正	様	奈良支部
宮本	幸一郎	様	奈良支部
大川	昌之	様	奈良支部
新開	克宏	様	奈良支部

編集後記

風薫る五月となりましたが、皆様におかれましては予防対策、体調管理大丈夫でしょうか。さて、広報誌は今号よりご一読いただいたとおり頁数を減らしたこのスタイルになりました。しかしながら情報広報委員会では、皆様に少しでもお役に立てるよう工夫しながらこれからも研鑽に努めたいと考えています。あと、委員会ではスタッフを募集しています。基本、各支部より担当委員を選出していただきご参加いただいておりますが、それ以外にも率先して参加いただける方を募集し

ています。1ヵ月に1回、委員会を開き、情報の収集と共有をしています。ここには、奈良県建築士会の活動がわかる材料があります。また、人脈を広げる場もあります。

奈良県建築士会では、他にもいろいろな委員会があります。以下、青年委員会・女性委員会・総務企画委員会・教育事業委員会・住まいまちづくり委員会・建築士試験委員会・制度特別委員会。ご興味を持たれた方は、事務局へお問い合わせ下さい。皆様のご参加をお待ちしております。(記：福田成生)

5月 20日(水) 監理技術者講習
21日(木) 令和2年度通常総会

6月 11日(木) 建築士定期講習
17日(水) 監理技術者講習

士 会 奈 良 通巻 631 号

令和2年5月1日(発行隔月1回1日発行)

発行所 一般社団法人 奈良県建築士会
〒630-8115 奈良市大宮町2丁目5-7 奈良県建築士会館
電話：0742-30-3111 FAX：0742-33-4333
<http://nara-kenchikushikai.or.jp/>
info@nara-kenchikai.or.jp

発行責任者 米村 博 昭

編集 (一社) 奈良県建築士会 情報・広報委員会

情報・広報委員会

委員長	松尾 憲治		
副委員長	折目 貴司	大倉 克之	
委員	乾井 哲	福本 保治	
	水守 寛敏	松田 七彦	
	洞 尚樹	松村 泰徳	
	小松原寛俊	森 茂雄	
	福田 成生	押部 誠	

奈良県のストレート合格者のおよ9割は総合資格学院の当年度受講生！

令和元年度 1級建築士学科・設計製図試験 (設計製図試験 12月19日発表)

奈良県
合格者占有率

No.1

1級建築士試験

奈良県 ストレート合格者占有率

88.9%

奈良県ストレート合格者9名中、当学院当年度受講生8名

令和元年度 1級建築士 設計製図試験 (12月19日発表)

奈良県 合格者占有率

85.7%

奈良県合格者28名中、当学院当年度受講生24名

※当学院のNo.1に関する表示は、公正取引委員会「No.1表示に関する実態調査報告書」に基づき掲載しております。 ※令和元年度12月19日に発表された、令和元年度10月13日実施会場の1級建築士設計製図試験の試験結果に基づきます。 ※選択科目合格者数・ストレート合格者数は、(公制)建築技術教育普及センター発表に基づきます。 ※学科・製図・設計製図試験に合格し、同年度の1級建築士設計製図試験にストレートで合格した方です。 <令和元年度12月19日現在>

開講
迫る!!

令和2年度

1級・2級建築士
学科対策講座

受講生
募集中!!

お申込みは
お早めに!

1級・2級 建築士

1級・2級 建築士

構造設計
1級建築士

1級・2級 土木施工管理技士

設備設計
1級建築士

1級・2級 管工事施工管理技士

建築設備士

宅地建物取引士

インテリア
コーディネーター

賃貸不動産
経営管理士



総合資格学院

学院長 岸 隆司



総合資格

検索 www.shikaku.co.jp

スクリーンショット

www.sogoshikaku.co.jp

Facebook 総合資格学院

奈良校 TEL.0742-30-1511

奈良県奈良市西大寺栄町3-27 泉谷ビル 4F

近鉄大和駅西大寺駅北口から徒歩5分